

## 公孫樹に感謝

大橋千佳子

空へ空へ緑の梢しならせて公孫樹は立てり最後の初夏に  
安らかな最期であれと祈るごと若き樵は良策を練る

深緑となれど扇のひとひらはしつとりとひんやりと柔らかか  
しなやかなイチヨウ青葉は布のよう横には引けど縦には伸びず

ビロードよりシリコンに似た手触りに億年生きる葉の強さ知る

黄葉を拾い上げては愛でていた六十余年の何と浅はか

寡黙なる先輩のもと伐採すユウヘイ君よ抽斗は増す

お清めの酒の匂いをまといつつ樹は薪へと切り分けられぬ

南西の角の空虚に西日差すほぼ真円の切り株すがし

この家と共に育った二十年瞬きの間か公孫樹にすれば